

辺野古埋め立て土砂搬出反対ニュース

北九州連絡協議会《2015年11月10日・No32》

連絡先…森下宏人 090-9495-3902 八記久美子 080-1730-8895



本体工事着工と言うけれど… 沖縄防衛局は、最終的な実施計画が描けない深刻な状態 今は小手先の工事を進めているだけ

ねえ先生。
政府は、辺野古の
「本体工事に着工した」
と言っているけど、
ホントなの？

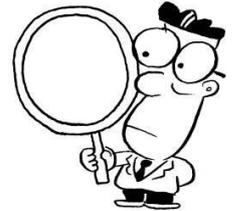


そうなの。
事実をしっかり見る事が、
大切ね。

国は、なんとかいろいろな部分工事をして既成事実を積み重ね、あたかも工事が順調に進んでいるかのように繕っているが、小手先の工事を進めているに過ぎないんじゃないかなあ。

新基地建設のための埋め立てをするには、いろいろな条件が必要じゃが、もっとも重要なのが、埋め立て予定の海域に流れ込んでいる美謝川の、河口の付け替え工事なんじゃ。

河口の付け替えには、名護市長の協力が不可欠じゃが、稲嶺市長は反対の立場。今も美謝川の付け替え工事については、基本的な目途が立っておらん。



ボーリング調査は、護岸というか、埋め立ての外壁の工法を確定するための土質調査が目的で、ボーリング調査が終わったとしても、美謝川の「付け替えをしないまま埋め立てをする」のか、「付け替えをして埋め立てをする」のか決まらなければ、最終的な埋め立て計画は立てられんのじゃよ。国としては深刻な状況なんじゃよ。

※埋め立て予定地が美謝川の河口部をふさぐため、沖縄防衛局は流れを変更し、河口を暗渠として地下水路を整備する予定です。

美謝川の水路切り替えについては、市の権限が及ぶ辺野古ダムを避け、キャンプ・シュワブ内から地下水路を造る計画に、昨年9月に設計変更を県に申請しました。しかし水中に太陽光が当たらない地下水路の長さが、当初計画の4倍以上に当たる、1022メートルに伸びました。水路の長さが伸びたことで仲井真県政も承認に難色を示し、防衛局は昨年11月に申請を自ら取り下げ、その後進捗していません。

視点広がったね《関門港湾労働組合協議会と懇談会開く》

11月4日(火)、関門港湾労組協議会(全港湾関門支部、全日検、日検労、検定労連、全日通などの門司の港湾関係の労組が協議会を作って共同行動を行っている組織)と、北九州連絡協議会は、土砂搬出阻止のための懇談会を開きました。この懇談会は、全国港湾の意向もあって開かれたものです。

懇談会では、まず、お互いの情報交換が様々行われました。その後一番時間を割いたのは、いかにこの運動を北九州に、そ

して全国に広げていくかと言う点でした。また、土砂積み出しが予測される場所の状況確認を、関門港湾労働組合協議会の皆さんの案内で、一緒に回ることも決まり、中身の濃い、視点の広がる懇談会となりました。



懇談会の様子